

古事記を読む会 2014年6月8日 NO.2

5月3日（日）午前10時～第2回古事記を読む会が開かれた。前回の疑問にふれた語があり、読みも進んだ。音読することはかなり抵抗があるが、神話の筋とは別に、古事記に書かれている事柄に驚きながら、原典（原文ではなく解説文であるが）にふれて、知る喜びを感じた。現代の考えからは難解な事があったり、そのことに意味があるのか考えたり、一人一人の個性的な読みに感心もした。

第2回は、伊耶那伎命の「禊ぎ」から始まり、「三貴子の分治」「須佐之男命の昇天」「うけい」さらに、「天の石屋」、「須佐之男命の追放」そして、「八俣の大蛇退治」と「須賀の宮」と名高い神話部分を読み進んだ。それだけに話題も多く、話が盛り上がった。参加者11名

【いろいろ出た話】

- ・イザナギも命となったり、神となったりする。神は命の尊称。日本書記でも尊は命と比べ立派な方。どんな違いがあるかという視点で今後も読んでいくとおもしろい。
 - ・神も男を書いて女を書く。左を書いて右を書く。中国からの思想かと思うがよく分からない。自身が思ったのは、前の文章と後の文章では考え方が変わってきて神秘的な世界になっているようだ。
 - ・クサカとタラシ：漢字にとらわれないで、音（オト）で捉える。日下は、日下とはどういうことを表す可能性があるか。日下ひのもとと読める。日本の国号、日の下、誇り高い言葉として日下を名乗った人もいたか。日のもとという感じ。日下の君、その人達はやがて日本国を。垂らす。照らすに繋がる。天照らすにも繋がる。たらし彦がしきりに出てくる。天守クラス。タラシの音感覚があったと考えられる。
- 神とは何か。カミ ミは乙類。かみつくのミは甲類（身を隠す感覚）
- ・正勝吾勝々（速日天之忍穗耳命） 勝つ、かつ cut、カッチィングと通じる。分割、CUTは先進技術に触れて修得された。

【終わりの話】

- ・八俣の大蛇と八たりの稚女。八に意味があるのか。喫ひき（クイキ）飲み込むイメージで納得。
- ・古事記は神話の世界と思っていましたが、金山の鉄とか鍛冶とか文明的な話しが出て、驚いた。
- ・天照大御神が岩戸をあけて出てくるとき、鏡に何が映っていたのでしょうか。
- ・スサノヲがイザナギの子であるという認識でしたが、そうではないのではという意見を聞き、眼から鱗の心境。天照の長男であるオシオミミの名が勝を三回も入れているのに事跡などが全くないのは？
- ・現代の感覚とは違った不思議な展開が多く理解するのに難しさを感じる。また、古代の人達の神に対する感覚と現代人のそれとは違うのだろうと思った。
- ・速須佐之男命と天照大御神の対立の原因があいまい。はじめから疑っている感じ。たくさん生ま

れてきている命はどのような役割があるのか。須佐之男之命は天照大御神に悪い感情をもっていないように感じた。

- ・スミノエの大神 （墨江）天照大神等神や命の名にどんなメッセージが籠められているか考えるとおもしろい。正勝吾勝々速日忍穂耳命と、何故3回もかつの音が繰り返されたか？

第2回は、このような感じでした。

会のはじめに→ 前回の疑問について話したい人が話した。（20分程度）

会の終わりに→ 疑問や感想を出し合った。（20分程度）そしてメモを提出して頂いた。

